

# 聴覚障がいと 共に生きる

手話を日常言語として使用している  
加藤厚子さんと渡辺正さんにお話を伺いました。



そうです。

「パン工場で出荷

## 周囲との コミュニケーションに 苦心した過去

幼い頃から耳が不自由だった加藤さんと渡辺さん。当時、2人を取り巻く社会状況は非常に厳しかったとい

います。

「通っていた聾学校では、紙片を入れたコップに息を吹きかけて発音のやり方を覚えたり、相手の口の動きを見て話している内容を読み取ったりする練習をしました。正しい発音を身に付けるのはとても難しく、つらかったですね」(加藤さん)

「学生時代は手話がまだ一般的に認知されておらず、『手まね』と呼ばれて恥ずかしいものだと考えられていました。先生からは『学校外で使ってはいけない』と言われたものです」(渡辺さん)

聾学校を卒業し就職した後、周囲との意思疎通には苦労が多かった



加藤厚子さん

2歳の時、高熱の病気が原因で失聴。現在、NPO法人新潟市ろうあ協会にて事務職に従事。

## 手話でお互いの世界が 広がる

最近では手話に対する理解が進み、聴覚障がいのある人にとっても、少しずつ暮らしやすい社会に近づいていくと2人は話します。

「昔は町内会の集まりに出ても周

りの話になかなか付いていきません

でしたが、最近は

手話通訳者を派遣

してもらえるよう

になり、難しい内

容も理解できるよ

うになりました。

分からないことが

あっても質問がで

きるのありがたい

です」(渡辺さん)

「担当の民生委



渡辺正さん

生まれつき聴覚障がいがある。現在、本市の手話通訳者養成講座の講師を務める。

「パン工場では、紙片を入れたコップに息を吹きかけて発音のやり方を覚えたり、相手の口の動きを見て話している内容を読み取ったりする練習をしました。正しい発音を身に付けるのはとても難しく、つらかったですね」(加藤さん)

「和裁の仕事をしていましたが、仕立ての技術は先輩の手本を見て覚え

るしかなく、健康者の同僚にはどう

しても後れを取ってしまいました」

(加藤さん)

「後ろから声を掛けられても気が

付かず、意図せず相手に不快な思

いをさせてしまったことがあります。

そんなときは、ぜひ正面から視線を

合わせて話し掛けてほしいですね」

(加藤さん)

「何げない普段のあいさつなどか

ら、少しずつでも手話を覚えてもら

えるとうれしいです。外国人と話す

ためにその国の言葉を勉強するよう

に、聴覚障がい者とコミュニケーション

することで、お互いの世界が広が

ると思います」(渡辺さん)



## 誰もが暮らしやすい地域社会を目指して

知っていますか？  
思いやりのマーク

本市は市民が手話への理解をより深め、手話を必要とする人が豊かな生活や人間関係を築くための取り組みを進めています。

### 学校での聴覚障がい者との交流

聴覚障がい者が市内の小・中学校で普段の生活や手話について語るなど、児童・生徒と交流しています。地域の中で障がい者と助け合い支え合うことを学び、「こころのバリアフリー」を推進しています。



桃山小学校での交流

### 手話通訳者・要約筆記者の派遣

聴覚障がい者などの日常生活を支援するため、講演会や町内会の会合などに手話通訳者や要約筆記者を派遣しています。まずは相談してください。

●無料 ●所定の申請書を障がい福祉課(☎025-226-1238、

FAX)025-223-1500)へ

※営利・政治・宗教活動は対象外。申請書、派遣基準は市ホームページに掲載



▲スマートフォンはこちらから

### 手話を学んでみませんか

市社会福祉協議会では、市内で手話の学習や聴覚障がい者との交流などの活動を行っているボランティア団体を紹介しています。詳しくは問い合わせください。

●同協議会地域福祉課(☎025-243-4370)、区ボランティア・市民活動センター



▲スマートフォンはこちらから

### 耳マーク

聴覚障がいのある人が、耳が不自由であることを周りに伝えるためのマークです。「はっきりと口元を見せて話す」「手話や筆談をする」などの対応をお願いします。



### 聴覚障害者標識(蝶々マーク)

聴覚障がいのある人が運転する自動車であることを示しています。このマークを付けた自動車の運転者は警音器の音が聞こえないことがあります。安全に通行できるように配慮しましょう。



※このほか別冊情報ひろば4面に障がい者に関するマークを掲載

### 編集後記～取材を終えて

「聞こえないのは不便だけど不幸じゃない」。渡辺さんの言葉からは、聴覚障がいを「個性」として受け入れ、その上で自分らしく生きたいという思いが感じられました。

「聞こえない人がいる」ことをみんなが理解し、手話などで気持ちを伝え合えるようになると、さらに安心して暮らせるまちになっていくのではないのでしょうか。